

横浜実践看護専門学校

令和3年度自己点検評価項目の達成および取組状況

1. 教育理念・目標		適切：4 やや適切：2	ほぼ適切：3 不適切：1	エビデンス
1	1 学校の理念・目的・人材育成像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	④	3 2 1	・学生便覧P25「教育計画」 ・学生生活の手引きP3
	2 社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構造を描いているか	④	3 2 1	・学生便覧の各学年の到達目標に記載
	3 学校における職業教育の特色は明確になっているか	④	3 2 1	・学生便覧P25「教育計画」 教育目的・目標に記載
	4 理念・目的・目標育成人材像・特色などが学生、保護者等に周知されているか	④	3 2 1	・新入生入学直前オリエンテーション、各学年保護者会にて周知

①現状と課題

- ・学校の理念・目的・人材育成像について、学生には入学時の新入生ガイダンスと校外研修において、保護者に対しては、各学年の保護者会を実施して説明をしている。オンラインでの参加も可能となって、出席率は70%程度まで上昇。来校型よりも参加者が増えているため、本校の教育活動について理解がいただけたと考える。また、入学から卒業までのカリキュラムマップを作成。全学生、教員の到達度理解、共有に効果があった。予め参加申し込みとご意見や質問用紙を配布していたので、学校の説明時に織り込むことができた。

②今後の対策

- ・実践的な職業教育への理解をより深めるため、入学時の学生を対象とする新入生ガイダンスに加え、入学後1か月以内に保護者対象の職業教育に関する説明会をオンラインを積極活用しながら継続実施する。学生の成長や学びを支え自立を促す家庭の役割は、職業教育において重要であり、保護者と学校との円滑な関係を築くことは、国家試験合格に向けた学生の学習意欲の向上に繋がるため、学校から積極的に保護者へ働きかけ、家庭と学校でのダブルサポートを徹底していく。
- ・コロナ感染状況が収束するまでは、オンラインでの保護者会を実施する。

2. 学校運営		適切：4 ほぼ適切：3 やや適切：2 不適切：1	エビデンス			
2	1 目標等に沿った運営方針、事業計画が策定されているか	④	3	2	1	・校務分掌規程 ・年度当初に事業計画を策定し、責任者を配置して、進捗状況を管理している。
	2 運営組織や意思決定機能は規則などにおいて明確化され機能しているか	④	3	2	1	・組織図、会議等に関する規程に記載
	3 人事・給与に関する規定は整備されているか	④	3	2	1	・就業規則、給与規程、業務評価に関する規程。
	4 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	④	3	2	1	・臨地実習契約書、個人情報・プライバシーの保護の徹底。 ・事故発生時マニュアルを策定。
	5 教育活動に関する情報公開が適切になされているか	④	3	2	1	・平成27年度より自己点検評価を実施し、ホームページにて公開。 ・保護者会で学校運営、教育活動を報告。
	6 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	④	3	2	1	・学生の情報を一元管理した「学習支援システム」、就職支援のための「就職支援システム」を活用。

①現状と課題

- ・ 学生や保護者からの問合せは、校長・副校長・教務主任・学年担任を中心に対応している。また、対応した内容については、定期ミーティングや定例会議を通じ、教職員間においてより綿密な情報共有を図っている。
- ・ コロナ感染拡大防止により予定していた実習および実習途中での中止があり、学内実習で代替したが、学習効果に影響が出ないよう、シミュレーターモデル人形や教材用電子カルテを活用したシミュレーション実習を実施した。
- ・ コロナ禍をきっかけに、学内のWi-Fi環境も更に充実させ、ICTを活用した効果的な学習が定着してきている。業務も会議、連絡等において、各種オンラインツールを積極活用している。

②今後の対策

- ・ 学園本部と連携を図りながら、情報システムの導入、ITを活用した効果的な教育を目指していく。コロナ禍をきっかけに、学内のWi-Fi環境を更に充実させ、ICTを活用した効果的な学習が定着してきている。業務も会議、連絡等において、各種オンラインツールを積極活用している。

3. 教育活動		適切：4 ほぼ適切：3 やや適切：2 不適切：1	エビデンス			
3	1 教育理念に沿った教育課程の編成・実施方針が策定されているか	④	3	2	1	・学生便覧P28「構造図」 ・学生便覧P29「学科進捗表」 ・教育理念・目的・目標に沿ったカリキュラム作成・知識・技術・態度を含めた実践力の向上のためのカリキュラム編成と演習・実習時間の確保。
	2 教育理念・育成人材像や看護師需給を踏まえた修業年限に応じた教育到達レベルや学習時間の確保は明確か	④	3	2	1	・学生便覧P29「学科進捗表」 ・保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定める基準に基づき、3,000時間100単位と定めている。
	3 カリキュラムは体系的に編成されているか	④	3	2	1	・学生便覧P28「構造図」 ・学生便覧P29「学科進捗表」 ・基礎、専門基礎、専門科目の順に進捗と学習内容を体系づけている
	4 キャリア教育、実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4	③	2	1	・施設見学、臨地実習（1,035時間）がカリキュラムに組み込まれており、学生の実践力を涵養。 ・学会発表、研修会への参加が減少した
	5 関係施設等、業界団体との連携により、カリキュラムの教育方法の作成・見直し等が行われているか	④	3	2	1	・実習施設とは実習開始前に評価方法等の打ち合わせ実施 ・毎年2回、平成28年度より教育課程編成委員会を実施。 ・実習指導者会議を実施し、指導体制意見交換を検討。
	6 関連分野における実践的な教育が体系づけられているか	④	3	2	1	・学生便覧P29「学科進捗表」 ・順序性、領域ごとに学習内容が規定されている。
	7 授業評価の実施・評価体制はあるか	④	3	2	1	・自己点検・自己評価委員会を組織化し実施。 ・授業・実習評価を実施し、評価結果は教員に戻している
	8 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	④	3	2	1	・学生便覧P8「施行規則」
	9 資格取得の指導体制、カリキュラムの中で体系的な位置づけはあるか	④	3	2	1	・国家試験対策として模擬試験を1年次より実施。振り返りを行っている。 ・国家試験の傾向と対策について教員が模擬試験実施業者、出版社より情報を得て指導。指導研修会への参加。 ・専門外部講師による補講、実習後に領域別国家試験問題取り組み。 ・教員による弱点問題の指導及び補講を複数回実施。
	10 人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	④	3	2	1	・専任教員資格取得者を採用し、専任教員養成未受講教員については計画的に研修を実施。 ・外部講師については、看護教育に携わった経験講師を採用。 ・本校の教育目標を説明し、シラバスを提示・協力依頼。 ・教育理念、教育目標は図式化して、学生、保護者に説明。本校での学びの到達を示したことにより、以前より可視化され、学生の意識向上につながった。

11	関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取り組みが行われているか	4	③	2	1	・学会、研修会の積極的な参加後教員に伝達講習会を実施。 ・コロナ禍の影響もあり、教員の学会参加が減少。
12	職員の能力開発のための研修が行われているか	④	3	2	1	・リーダーシップ研修、目標管理研修、ファシリテーター指導に積極的に参加。

①現状と課題

- ・ コロナ禍で実習日程の変更を余儀なくされたこともあり、当初予定していた研修に参加できないケースもあった。各種研修、学会も対面型、オンラインと様々な実施形態が考えられるが、日程調整に課題がある。
- ・ 学生が学びに活用しやすいよう、シラバスの学習内容をより具体的な表現で追記している。例えば本校がスクールカウンセラーを配置し、学生のメンタル面のサポートをしているように、精神看護学のシラバスの中で科目のねらいとしてメンタルの支援について追記する等、学生により実学的な内容の導入を進めている。

②今後の対策

- ・ 学園内でFD（ファカルティ・ディベロプメント）が実施されており、教員の指導力向上のため、各種研修を活用していく。

4. 学修成果		適切：4 ほぼ適切：3 やや適切：2 不適切：1	エビデンス			
4	1 就職率の向上が図られているか	④	3	2	1	・担任、アドバイザーに加え学内就職担当・就職指導部による総合的なサポートにより就職支援を行っている。 ・模擬面接、履歴書の書き方、接遇について指導。 ・就職確定率100%達成に向け採用試験時期の相談に応じている。 ・学内に実習病院を招き学内合同病院就職説明会を2年次の3月に実施し早期に就職の意識付けを行っている。
	2 資格取得率の向上が図られているか	4	③	2	1	・国家試験合格率100%を目指しグループによる試験対策模擬試験を随時実施。 ・自宅学習時間確保の指導、学習環境の調整。 ・卒業試験の実施 ・領域毎の補講の実施
	3 退学率の低減が図られているか	④	3	2	1	・主な退学理由として、1年生は進路変更、2年生、3年生は実習を境に学習意欲が低下したことが挙げられる。 ・経済的支援が必要な学生については、定期面談を実施し、奨学金等の案内を行っている。 ・令和2年度退学率は1.8%。
	4 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	④	3	2	1	・在校生は担任・アドバイザー面接で産学連携の取り組み、ボランティア活動などを把握している。 ・卒業生は実習病院や来校する卒業生から情報を入手している。
	5 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	④	3	2	1	・校友会や学園祭ホームカミングデー通し卒業後の動向を把握していく。

①現状と課題

- 問題を抱える学生の早期発見のため、担任・アドバイザーによる定期面談を実施し、学業不振や対人関係等の問題が見られる場合には迅速なフォローを行っている。学業不振の中には、親や周りの勧めで看護学校に入学したものの、3年の領域別実習が始まると学習についていけず、つまづき、精神的に追い込まれていくケースが見られる。そうした学生については、本人の早期職業理解・職業適性の確認、把握が必要である。また、校医、スクールカウンセラーを配置するなど、健康面のフォロー体制を整えてはいるが、入学後に体調不良（病気）が発覚することがある。入学選考時の配慮として、公平性の観点から、健康面の状況まで確認できないこともひとつの要因と考えている。
- 令和3年度の退学率は10%と前年度（1.8%）より増加した。

②今後の対策

- 複合的な理由や急変事項による退学を防止するために、問題を抱える学生には担任・アドバイザーに加え教務主任も同席し、ダブルサポート体制でより精度の高い定期面談を実施するとともに、保護者と連携して問題解決に向けて、適切な支援を行う。
- 退学時期として、10月・11月頃の実習評価で不合格になったことで、退学に至るケースが見受けられる。実習での目標到達が出来ずに退学することのないよう、実習中または再実習での目標到達を目指し指導を実施。

5. 学生支援		適切：4 ほぼ適切：3 やや適切：2 不適切：1	エビデンス			
1	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	④	3	2	1	<ul style="list-style-type: none"> ・担任、アドバイザーに加え、就職担当と就職指導部が連携し就職支援に当たっている。 ・学内合同病院就職説明会の実施。 ・模擬面接、接遇研修の実施
2	学生相談に関する体制は整備されているか	④	3	2	1	<ul style="list-style-type: none"> ・学習面では担任、アドバイザー、実習担当教員がサポートしている。 ・健康面は校医、スクールカウンセラーがサポートしている。 ・学校生活全般、経済的な面は担任、アドバイザー、事務局の担当者が対応している。
3	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	④	3	2	1	<ul style="list-style-type: none"> ・横浜実践看護専門学校特待生制度 ・岩崎学園看護師育成基金 ・岩崎学園奨学生 ・学費分割納入制度 ・学生寮
4	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	④	3	2	1	<ul style="list-style-type: none"> ・年度毎に健康診断を実施。 ・校医による健康診断後の指導、看護教員による健康相談を適宜実施 ・カウンセラーによるカウンセリングの実施
5	5 課外活動に対する支援体制は整備できているか	4	3	②	1	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍でボランティア活動が相次いで中止となったが、岩崎学園横断の学園祭、iCON、アイデアソン等へ参加し、他校との連携を深めた。
6	6 学生の生活環境への支援は行われているか	④	3	2	1	<ul style="list-style-type: none"> ・学生寮、学生会館の提供。その他の相談は担任、アドバイザーが行っている。定期面談の実施。
7	7 保護者と適切に連携しているか	④	3	2	1	<ul style="list-style-type: none"> ・入学直前オリエンテーション、各学年毎に保護者会を実施に、学校生活、学習状況を説明している。
8	8 卒業生の支援体制はあるか	④	3	2	1	<ul style="list-style-type: none"> ・岩崎学園校友会 ・学園祭のカミングデイ実施
9	9 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	④	3	2	1	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床看護スタッフの技術演習、シミュレーション教育研修の実施。
10	10 高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行われているか	④	3	2	1	<ul style="list-style-type: none"> ・高校生の来校対応、高校生への模擬授業の実施、高校訪問で看護師について説明をして看護師養成の理解を求めている ・神奈川県専修学校各種学校協会の協力を得て、「総専協夏季連携講座（看護師系）」開校。

①現状と課題

- ・ 新入生オリエンテーションや、4月、6月、7月に保護者会を実施しているが、学校生活の様子や学習の状況等を保護者と共有・連携し、学生支援を行うため、保護者会の適切な開催時期を改めて検討していく。令和3年度はコロナ感染防止の観点および参加率向上のため、オンライン開催を実施した。
- ・ 卒業生との連絡体制を強化している。入学希望者を対象としたオープンキャンパスや学校説明会等に卒業生を招き、就職病院での業務内容や仕事のやりがい、看護師の魅力を語ってもらっている。

②今後の対策

- ・ 担任制の更なる充実と、保護者との連携を強化することで、学校と家庭でのダブルサポート体制を充実させ、学生の状況把握や学習支援、生活支援を進めていく。
- ・ 学園祭で卒業生を対象とするホームカミングデイを設けて、卒業生のニーズや就職後の状況を把握し、リアリティショックによる早期離職の防止となる支援を行っていく。また、学年間交流の機会を定期的に図り、学習支援や生活支援の輪が広がるような工夫をしていく。
- ・ 卒業生が在校生に学習方法、実習の仕方、国家試験対策などの経験、事例を話してもらう機会を設け、学習意欲向上を図る。

6. 教育環境		適切：4 ほぼ適切：3 やや適切：2 不適切：1	エビデンス		
6	1	施設設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか	④	3 2 1	・ 指定規則に沿った必要な教材の確保はできている。 ・ 設備は教室・看護実習室及び各演習室、図書室。
	2	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修の場などについて十分な教育体制を整備しているか	④	3 2 1	・ 外部施設を利用し、新入生宿泊研修を実施。 ・ 単位取得に必要な臨地実習施設の確保。 ・ インターンシップは学生が主体的に計画・実施している。 ・ コロナの影響で海外研修は中止となった。
	3	防災に対する体制は整備されているか	④	3 2 1	・ 学生、教職員を含めた全員参加の防災訓練を定期的実施。不審者侵入を想定し防犯訓練実施。 ・ 消火器や消火梯子等防災機器の設置個所、使用方法の説明・体験。 ・ 緊急連絡網の作成。

①現状と課題

- ・ 教育環境は問題なく整備されている。

7. 学生受入れ募集		適切：4 ほぼ適切：3 やや適切：2 不適切：1	エビデンス		
7	1	高等学校等接続する機関に対する情報提供等の取り組みを行っているか。	④	3 2 1	・ 進路ガイダンス、学校説明会、オープンキャンパス、学校訪問等で情報を提供。 ・ 各種進学情報誌で学校情報を提供。
	2	学生募集活動は、適正に行われているか	④	3 2 1	・ HPや入学案内書に学校の理念、教育目的・目標、教育課程を掲載して学校の特徴を公開している。 ・ 電話での問合せや、来校者には個別対応を実施。 ・ 各募集イベント、高校訪問を実施。
	3	学生募集活動において、資格取得・就職状況等の情報は正確に伝えられているか	④	3 2 1	・ 入学案内書、高校訪問、進学ガイダンス、HPにて紹介。
	4	学生納付金は妥当なものになっているか	④	3 2 1	・ 学生募集要項やHPにて全学年分の学費、教材費を公表している。

①現状と課題

- ・ 学生募集については、18才人口の減少、看護系大学が増設される中、学生確保はますます厳しさを増してくる。高校新卒者に囚われず、社会人を含め多様な人材の受入れが課題。
- ・ 2022年度生募集については、延べ出願者数196名、受験者数182名、合格者数89名（実質合格倍率2.0倍）、入学者数は79名であった。うち、既卒生の入学は、11名（割合13.9%）を占めている。

②今後の対策

- ・ 高校新卒者の受入れについては、引き続き高等学校の進路担当教員との連携を深め、効果的な受入れを行う。また、現役生、既卒生それぞれの関心事に合わせた募集イベントを設定し、募集間口を県内の大学にも募集を拡大する。

8. 財務		適切：4 ほぼ適切：3 やや適切：2 不適切：1	エビデンス
8	1 中長期的に学校の財務基盤は安定していると見えるか	④ 3 2 1	・決算書（令和元年度）
	2 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	④ 3 2 1	・予算書（令和2年度）
	3 財務について会計監査が適正に行われているか	④ 3 2 1	・独立監査法人の監査報告書（令和元年度）
	4 財務情報公開監査の体制整備はできているか	④ 3 2 1	・ホームページにて公開。

①現状と課題

- ・財務状況は適正である。

9. 法令等の遵守		適切：4 ほぼ適切：3 やや適切：2 不適切：1	エビデンス
9	1 法令、保健師助産師看護師法、専門学校設置基準の遵守と適正な運営がなされているか	④ 3 2 1	・保健師助産師看護師学校養成所指定規則等に基づき、行政指導を受けながら適正に運営できている。
	2 個人情報に関し、その保護のため対策が取られているか	④ 3 2 1	・入学試験願書書類、成績表、実習記録、患者受持承諾書など教職員も管理を厳重に鍵をかけ、学生情報の守秘義務は徹底している。 ・学生には倫理的配慮も講義や指導で意識させている。
	3 自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	④ 3 2 1	・自己点検評価を平成28年度より実施。
	4 自己評価結果を公表しているか	④ 3 2 1	・自己点検評価を実施。平成27年度実施分よりホームページにて公開。

①現状と課題

- ・平成27年度より自己点検評価について情報公開している。過去の実施を基に、点検項目や評価基準及び手法等の妥当性について精査を進めている。

②今後の対策

- ・点検項目や評価基準及び手法等の妥当性についての精査に加え、卒業生に対するアンケートの実施や臨床現場との連携を図り、ユニフィケーションの一環として、臨地実習病院の実習指導者による学校への評価の導入等を進めていく。また、外部講師に対しても自己点検評価結果を共有し、実践的な職業教育の向上や学校運営の適正化についてアドバイスを求めていく。

10. 社会貢献・地域貢献		適切：4 ほぼ適切：3 やや適切：2 不適切：1	エビデンス			
10	1 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。	④	3	2	1	・「総合学科高校夏季公開講座」(夏休み1講座)の実施による高校生の受入。 ・通信制看護教員養成研修のために、本校教員や施設を活用している。
	2 ボランティアなどの社会活動に参加しているか。	4	③	2	1	・例年、神奈川県との包括協定にて、各種スポーツイベントへの救護活動や高齢者健康保持コグニサイズ普及活動へのボランティアに参加しているが、令和3年度はコロナ禍で少しずつ回復してきた。 ・岩崎学園と地元プロスポーツチーム(ラグビー、ホッケー、バスケット)との産学連携で、ユニフォームデザインや学生トレーナーとして参加した。

①現状と課題

- ・ 学生は時間を有効活用して、神奈川県との包括協定による各種スポーツイベントや産学連携によるボランティア活動に積極的に参加している。

②今後の対策

- ・ 学生の特質や希望等を把握し、地域連携講座や神奈川県との包括協定等、社会活動の実施内容と照らし合わせた上で、学生に活動内容の紹介をしていく。併せて、年間計画と具体的な活動内容を全学生へ事前に周知し、学生が主体的に参加計画が立てられるようにしていく。

11. 国際交流		適切：4 ほぼ適切：3 やや適切：2 不適切：1	エビデンス			
11	1 留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	4	③	2	1	・入学選考規定(入学資格審査項目)
	2 国際交流を意識した授業科目が設置されているか	④	3	2	1	・基礎分野「国際文化交流」の設置。
	3 国際的視野を広げるための学習環境を整えているか	4	3	②	1	・「国際文化交流」において、台湾への海外研修を実施しなかった。 ・学内での台湾に関する課題発表となった

①現状と課題

- ・ 留学生の受入体制は整備はされているが、2022年度生募集において入学志願者はいなかった。

②今後の対策

- ・ 特になし。